

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和元年(2019年)10月

## 1 東京都中央卸売市場(2019年1-9月)の青果物取扱高について

① 全体の入荷量は約139万tで、前年比1%増、金額は約3,939億円で前年比7%減となった。

② 茨城県産の入荷量は約16万tで、前年並、金額は約390億円で前年比10%減となった。

(金額の内訳は、野菜約313億円、果実約78億円。前年同期比で野菜12%減、果実2%減、平年同期比で野菜10%減、果実1%増)  
 金額が【増加】した品目(前年対比)：レタス類(109%)、かんしょ(104%)、いちご類(105%)  
 金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(43%)、みず菜(75%)、こまつな(85%)、メロン類(96%)

茨城県の青果物入荷量は平年比1%減(シェア11.2%)、取扱金額は同8%減(シェア9.9%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1-9月計)			
	1-9月計	年間計	年間比	1-9月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	2019	1,390,682		155,783	←シェア(11.2%)		10.8%	9.4%	3.5%	
	H30	1,379,492	1,907,279	72.3	155,469	225,946	68.8	10.8%	9.5%	3.7%
	(前年比)	101			100	シェア(11.3%)				
	平年値※	1,439,794	1,978,757	72.8	157,897	228,350	69.1			
	(平年比)	97			99	シェア(11.0%)				
金額	2019	393,899		39,049	←シェア(9.9%)		7.5%	5.4%	6.4%	
	H30	424,258	568,808	74.6	43,424	56,745	76.5	7.9%	5.3%	6.0%
	(前年比)	93			90	シェア(10.2%)				
	平年値※	418,418	563,980	74.2	42,396	57,101	74.2			
	(平年比)	94			92	シェア(10.1%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5か年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
平成30年実績  
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)  
 千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)  
 北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)  
 栃木県：金額シェア(5.8%)、数量シェア(3.4%)

## 2 東京都中央卸売市場(令和元年9月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

( )内は前年対比

野菜類の入荷量は約7.9千トン(102%)、単価は381円(91%)、金額は約30.0億円(93%)

果実類の入荷量は約2.2千トン(85%)、単価は373円(114%)、金額は約8.4億円(97%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5か年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	ピーマン	828	98%	99%	107%	445	99%	110%	107%	368,053	96%	108%
	れんこん	805	102%	96%	97%	438	94%	89%	89%	352,919	96%	85%
	こまつな	569	97%	116%	99%	404	119%	109%	103%	229,986	116%	126%
	トマト	523	100%	78%	89%	417	95%	112%	110%	217,974	94%	87%
	野菜総計	7,899	102%	91%	95%	381	91%	99%	95%	3,010,452	93%	90%
果実	日本なし類	1,669	92%	91%	89%	322	120%	129%	128%	536,921	110%	117%
	果実総計	2,244	85%	83%	87%	373	114%	119%	124%	837,499	97%	99%

(野菜)

台風15号により出荷量が減少している品目もあるが、東北が主産地の時期であり、影響は限定的。

れんこんは、台風直後は出荷量が減少したものの、すぐに盛り返し数量は前年よりやや多い状況。こまつなは学校給食用需要の高まりから単価はやや高めで推移した。

トマトは台風の影響があり少なかった前年並の数量となった。単価は野菜相場が全体的に高騰していた昨年よりは安いものの、平年比はト回った。

(果実)

日本なし類は豊水のみつ症発生や台風の影響を受けたこと、ぶどう類は長梅雨により着色不良が発生したことから出荷量が減少し、果実全体でも数量減となった。果実全体で数量が少ない中、比較的ボリュームのある日本なし類への引き合いが高まり、単価が上昇した。

本県産の日本なし類も、みつ症発生で数量は減少したが、単価高により金額は前年・平年を上回った。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出